

基準4 学生の受入

	優れた点	更なる向上が期待される点	改善を要する点
平成17	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ アドミッション・ポリシーが明確に定められ、様々な手段によって周知が積極的かつ十分に行われている。また、多様な選抜方法を実施し、求める学生像に沿った学生を幅広く受け入れている。(長岡)</li> <li>◎ 当該大学及びハノイ工科大学の学位が同時に取得できる「日本-ヴェトナム ツイニング・プログラム」は、指導的技術者の養成を目的とする当該大学の特徴を活かした国際協力の取組であり、また、アジア圏の優秀な学生を受け入れるための方策としても有効である。(長岡)</li> <li>○ 入学者の追跡調査を行い、その結果を分析することでアドミッション・ポリシーに沿った学生の受入が行われているかどうかを検証し、入学者選抜方法の改善を図っている。(長岡)</li> <li>◎ 大学院修士課程までの一貫教育の方針に則り、学内選抜制度を設け、学部学生の多くが大学院に進学している点は、当該大学の特色である。(長岡)</li> </ul>		◎ 1年次入学者及び大学院博士後期課程入学者の定員超過率が高い状況が続いている。(長岡)
	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 毎年ほぼすべての高等専門学校を積極的に訪問し、アドミッション・ポリシーの周知を図っている。(豊橋)</li> <li>○ 入学者選抜方法研究委員会が設置され、入学者選抜について検証・改善のシステムが機能している。(豊橋)</li> <li>◎ 大学院修士課程までの一貫教育の方針に則り、学内選抜制度を設け、多くの学部学生が大学院に進学している点は、当該大学の特色である。(豊橋)</li> </ul>		◎ 1年次入学者の定員超過率が高い状況が続いている。(豊橋)
	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ AO入試では、応募時にビデオによる自己アピール資料の提出を義務づけ、教育の特色であるコミュニケーション及びプレゼンテーションの能力について受験生の資質を見極めるなど、入試方法の工夫が見られる。(はこだて未来)</li> <li>○ 年度進行に伴って当該大学の教育理念や目標が周知され社会に浸透してきているため、数学・物理系科目の学力の高い学生が増えてきている。(はこだて未来)</li> </ul>		◎ 大学の目的に照らして、大学院課程における社会人の積極的な受入に向けて改善の余地がある。(はこだて未来) ◎ 大学院課程における入学定員と実入学者数との関係の適正化が望まれる。(はこだて未来)
	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 教育の理念に基づいて、求める人材像や入学者選抜の基本方針を定め、それを記載した大学案内等を、オープンキャンパス、進学説明会で配布しているほか、大学のウェブサイトにも公表している。また、それに対応した、一般選抜試験、特別選抜試験を行い、出題も単なる知識を問うものではないよう工夫されている。(大分県立看護)</li> </ul>		◎ 3年次編入の入学定員に対する実入学者数の適正化が望まれる。(大分県立看護)
平成18	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎ 医学部医学科では、編入学者選抜が20人規模で実施されている。また、推薦入学において、地域の医療を支える人材育成の観点から15人の「青森県内枠」が設けられ、「将来青森県内の地域医療又は医学研究に従事する者」であることがその要件の一つとなっている。(弘前)</li> <li>○ 志願者増加の方策として、新たに八戸市と札幌市に学外試験場が開設されているほか、臨時入学試験改善委員会において、受験科目の簡素化、第二志望制度の導入など入学試験の改善に関する検討が積極的に行われている。(弘前)</li> </ul>		◎ 大学院の一部の課程では、入学定員充足率が低い状況が見られる。(弘前)
	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 個別学力試験について、岩手県高等学校教育研究会(教科部会)に依頼し、外部評価を行っている。(岩手)</li> </ul>		◎ 大学院の一部の課程では、入学定員超過率が高い状況が、専攻科及び別科では、入学定員充足率が低い状況が見られる。(岩手)
			◎ 大学院の一部の課程、及び専攻科では、入学定員充足率が低い状況が見られる。(秋田)
			◎ 大学院の一部の課程では、入学定員超過率が高い状況が見られる。(山形)
			◎ 大学院の多くの課程では、入学定員超過率が高い状況が見られる。(東京農工)
			○ 専攻科では、入学定員充足率が低い状況が見られる。(京都教育)
			◎ 大学院の多くの課程では、入学定員超過率が高い状況が見られる。(徳島)
			◎ 大学院の課程では、入学定員充足率が低い状況が、見られる。(奈良県立医科)
	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎ 音楽学部琉球芸能専攻で社会人特別選抜を実施するとともに、社会人特別選抜においては実技試験を一般入試と同等に課し、多様な人材を受入れている。(沖縄県立芸術)</li> </ul>		
<ul style="list-style-type: none"> <li>◎ 大学設置の目的に沿って県民の期待に応えるよう、地域推薦入学制度を設け、県内出身者の数を確保している。(沖縄県立看護)</li> </ul>			
平成19			◎ 大学院博士後期課程の多くの専攻においては、入学定員充足率が低い。(室蘭工)
	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎ 態度・技術等の評価指標を含めて入学時から卒業後までを追跡する学生トレース支援システムの構築に向けて取り組んでいる。(旭川医)</li> <li>○ 入学センターにおける選抜方法の検討を改善に役立てている。(旭川医)</li> <li>○ 特別選抜(地域枠推薦入学、10人)を設けて地域医療の充実を目指している。(旭川医)</li> </ul>		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎ 適切なAO入試を実施し、高い実績を上げている。(東北)</li> <li>○ 綿密な調査研究に基づき、大学全体の入学者選抜方針を検討・修正するなど、入学者選抜の改善に向けた重層的なさまざまな努力を全学一体となって行っている。(東北)</li> </ul>		◎ 大学院の一部の研究科においては、入学定員超過率が高い、又は入学定員充足率が低い。(東北)
	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 入学者受入方針について、各種広報資料やウェブサイトへの掲載にとどまらず、高等学校訪問、大学説明会、オープンキャンパス等で詳しく説明している。また、入学者受入方針の適切性について、学内での調査検討のみでなく、学外関係者との意見交換や外部評価を踏まえて、継続的に検討している。(福島)</li> </ul>		◎ 大学院修士課程の一部の研究科においては、入学定員充足率が低い。(福島)

基準4 学生の受入

	優れた点	更なる向上が期待される点	改善を要する点
	○ 平成18年度には、学外の進学相談会に90回程度参加しているほか、大学訪問、高等学校の模擬講義依頼を受け入れ、夏季オープンキャンパスの参加者も入学定員の3.6倍の参加者があるなど、アドミッション・ポリシーの周知の程度が高いと言える。(千葉)		◎ 大学院の一部の研究科・学府においては、入学定員超過率が高い。(千葉)
	○ 外国語学部では、アドミッション・ポリシーに合致した学生の受入を可能とするため、平成18年度選抜入試から、前期日程で新たに「世界史」を受験科目に加えている。(東京外語)		
	◎ 附属科学技術高等学校との連携による「科学技術創造立国としての高大連携システム及びその効果に関する研究」に取り組み、従来にない新しい資質を備えた人材の育成を目指し、特色ある高大連携特別選抜を実施している。(東京工大) ◎ 入学時に、学生に進学すべき学科を特定させずに、2年次進級時に学科を選択させる「類別入学制度」を採用している。(東京工大)		◎ 大学院の一部の研究科においては、入学定員超過率が高い、又は入学定員充足率が低い。(東京工大)
			◎ 大学院博士後期課程の一部の研究科においては、入学定員充足率が低い。(一橋)
			◎ 大学院の一部の研究科・学府及び専攻科においては、入学定員超過率が高い、又は入学定員充足率が低い。(横浜)
			◎ 大学院の一部の研究科等においては、入学定員超過率が高い。(新潟)
			◎ 大学院修士課程の一部の専攻においては、入学定員充足率が低い。(上越教育)
			◎ 大学院の一部の研究科等においては、入学定員超過率が高い、又は入学定員充足率が低い。(金沢)
			◎ 大学院の一部の専攻及び専攻科においては、入学定員超過率が高い、又は入学定員充足率が低い。(山梨)
			◎ 大学院の一部の研究科においては、入学定員超過率が高い。(信州)
			◎ 大学院の一部の研究科及び別科においては、入学定員超過率が高い、又は入学定員充足率が低い。(岐阜)
	○ 学士編入学、帰国子女や外国人への特別入学制度等多様な入試制度を実施している。(浜松医)		◎ 大学院博士課程の一部の専攻においては、入学定員超過率が高い、又は入学定員充足率が低い。(浜松医)
			◎ 大学院博士後期課程の一部の研究科においては、入学定員充足率が低い。(名古屋)
			◎ 大学院修士課程の一部の専攻及び専攻科においては、入学定員超過率が高い、又は入学定員充足率が低い。(愛知教育)
	○ アドミッション・ポリシーの周知状況を検証するために、入学者に対して「新入生に対するアドミッション・ポリシーに関するアンケート調査」を実施し、表現の工夫などの改善策を講じている。(三重)		◎ 大学院の一部の研究科、専攻科及び別科においては、入学定員超過率が高い、又は入学定員充足率が低い。(三重)
	◎ 各学部の明確なアドミッション・ポリシーの下、学力の高い学生の確保に努めている。(京都)		◎ 大学院の一部の研究科・学舎においては、入学定員超過率が高い、又は入学定員充足率が低い。(京都)
			◎ 大学院修士課程の一部の専攻及び専攻科においては、入学定員超過率が高い、又は入学定員充足率が低い。(大阪教育)
			◎ 大学院博士課程の一部の専攻においては、入学定員超過率が高い。(兵庫教育)
	○ 各出願区分の志願者数、合格者数、合格最高点、合格最低点、平均点等の情報や、出題意図や採点基準等がウェブサイトにおいて公開されている。(奈良女子)		◎ 大学院の一部の専攻においては、入学定員超過率が高い、又は入学定員充足率が低い。(奈良女子)
			◎ 大学院博士後期課程及び専攻科においては、入学定員充足率が低い。(和歌山)
			◎ 大学院の一部の研究科においては、入学定員超過率が高い、又は入学定員充足率が低い。(鳥取)
	○ 入学試験問題の作成に当たり、教育学部の教科教育科目を担当する教員による、高等学校学習指導要領から出題範囲が逸脱していないかの点検作業を平成18年度入試より実施している。(岡山)		◎ 大学院博士後期課程の一部の研究科においては、入学定員超過率が高い。(岡山)
	◎ スーパーサイエンス特別コースを設置し、求める人材の確保に努めている。(愛媛)		◎ 大学院の一部の研究科においては、入学定員超過率が高い。(愛媛)
	◎ 医学部医学科の入学試験(AO入試、3年次学士入学試験)で、態度・習慣領域評価を採用して、幅広い人材を発掘する努力を重ねている。(高知)		◎ 大学院博士後期課程においては、入学定員超過率が高い。(高知)
	◎ AO入試の一つとして、21世紀プログラム課程入学試験の手法は特筆に値する。(九州)		◎ 大学院の多くの学府においては、入学定員超過率が高い、又は入学定員充足率が低い。(九州)
			◎ 大学院の一部の研究科においては、入学定員超過率が高い、又は入学定員充足率が低い。(長崎)

基準4 学生の受入

	優れた点	更なる向上が期待される点	改善を要する点
	○ 県内高等教育機関の共同開催（高等教育コンソーシアム宮崎）による合同進学説明会なども活用し、大学のアドミッション・ポリシーの周知に努めている。また、県外でのアドミッション・ポリシーの公表・周知活動も積極的にしている。（宮崎） ◎ 教育文化学部では、平成19年度個別学力検査前日程を横浜試験場でも実施し、受験者増に努めている。（宮崎）		◎ 大学院の一部の研究科、専攻及び別科においては、入学定員超過率が高い、又は入学定員充足率が低い。（宮崎）
	○ アドミッション・ポリシー等を県内すべての高等学校長との教育懇話会、鹿児島県大学・高校ガイダンスセミナーなど、多くの機会でも直接説明している。（鹿児島）		◎ 大学院の一部の研究科においては、入学定員超過率が高い（鹿児島）
	○ アドミッション・ポリシーが明確であり、多様な入学者選抜を行っている。（鹿屋体育）		◎ 大学院修士課程及び博士後期課程においては、入学定員超過率が高い。（鹿屋体育）
	◎ アドミッション・ポリシーに沿った学生を確保するため、学力や学識だけでなく、面接試験によって、プレゼンテーション能力や意欲を審査する方法を採用しているほか、入学時期を多様化させている。（北陸先端）		
			◎ 大学院修士課程及び博士後期課程においては、一部の専攻を除いて入学定員充足率が著しく低い。（大妻女子）
平成20			◎ 学士課程の1つの学部の3年次編入入学及び大学院博士後期課程の1つの研究科においては、入学定員超過率が高い。（宇都宮）
	◎ AO入試入学者に対して、国語・英語・数学・物理の入学前教育を通信教育方式で行っている。（京都工芸繊維）		◎ 大学院博士前期課程においては、入学定員超過率が高い。（京都工芸繊維）
			◎ 大学院の一部の研究科においては、入学定員超過率が高い、又は入学定員充足率が低い。（神戸）
	◎ 学部・研究科でアドミッション・ポリシーが明確に定められている。また、追跡調査等が組織的に実施される体制になっており、その結果が入学者選抜の改善に結び付いている。（大阪市立）		◎ 大学院の一部の研究科においては、入学定員超過率が高い、又は入学定員充足率が低い。（大阪市立）
			◎ 学士課程の2年次編入においては、入学定員充足率が低い。（国際教養）
			◎ 学士課程の3年次編入においては、入学定員充足率が低い。（神奈川県立福祉）
	◎ 芸術文化学部では入学後に学生の追跡調査を行い、その結果を入学者選抜の改善に活かしている。（尾道）		◎ 大学院の2つの研究科において、入学定員充足率が低い。（尾道）
	◎ 特色あるアドミッション・ポリシーを具体的に明示し、それに沿った入学者の確保に努めている。（宮崎県立看護）		◎ 大学院博士前期課程の入学志願者が少ない。（宮崎県立看護）
		◎ 福祉マネジメント研究科の入学者数が減少しつつあることに対して、長期履修制度を導入するなど積極的な改革が準備されている。改革の進展が期待される。（日本社会事業事業）	
			◎ 入学志願者が少なく、入学定員充足率が低い。（光産業創成）
平成21			◎ 学士課程の1つの学部の3年次編入及び大学院課程の一部の研究科等においては、入学定員超過率が高い、又は入学定員充足率が低い。（北海道）
			◎ 大学院課程の1つの研究科においては、入学定員超過率が高い。（茨城）
			◎ 学士課程の1つの学部の3年次編入及び大学院課程の一部の研究科においては、入学定員超過率が高い。（群馬）
			◎ 学士課程の多くの3年次編入及び大学院課程の一部の研究科においては、入学定員超過率が高い、又は入学定員充足率が低い。（埼玉）
			◎ 学士課程の3年次編入及び大学院課程の一部の研究科においては、入学定員超過率が高い、又は入学定員充足率が低い。（東京）
			◎ 学士課程の1つの学部の3年次編入においては、入学定員超過率が高い。（お茶の水女子）
			◎ 学士課程の3年次編入及び大学院課程の一部の研究科においては、入学定員超過率が高い。（電気通信）
			◎ 大学院課程の1つの研究科においては、入学定員充足率が低い。（福井）
			◎ 大学院課程の1つの研究科においては、入学定員超過率が高い。（静岡）
			◎ 学士課程の3年次編入及び大学院課程で入学定員超過率が高い。（名古屋工業）
			◎ 専攻科においては、入学定員充足率が低い。（滋賀）
			◎ 学士課程の1つの3年次編入及び大学院課程の一部の研究科においては、入学定員超過率が高い、又は入学定員充足率が低い。（大阪）

基準4 学生の受入

	優れた点	更なる向上が期待される点	改善を要する点
	○ 留学生を積極的に受け入れるため、学部、研究科（法文学部、総合理工学部、生物資源科学部、総合理工学研究科及び生物資源科学研究科）における私費外国人留学生の特別選抜においては、渡日前の入学手続きを可能にしている。（島根）		○ 学士課程の1つの学部の3年次編入においては、入学定員超過率が高い。（島根）
			◎ 学士課程の一部の3年次編入、大学院課程の一部の研究科及び専攻科においては、入学定員超過率が高い、又は入学定員充足率が低い。（広島）
	○ アドミッションセンターが入学時調査「大学受験時の状況に関する調査」と卒業時調査「卒業時の実態に関する調査」を毎年度実施しており、これらの情報とともに、全学入試委員会及び各部局入試委員会では、アドミッション・ポリシーの検討を含む入学者受入に関する様々な検討を行っている。（山口）		◎ 大学院課程の一部の研究科及び専門職学位課程においては、入学定員超過率が高い。（山口）
			◎ 学士課程の1つの学部の3年次編入及び大学院課程の一部の研究科においては、入学定員超過率が高い、又は入学定員充足率が低い。（香川）
	○ アドミッション・ポリシーの内容構成が統一されており、わかりやすいものになっている。（福岡教育）		
			○ 大学院博士前期課程の学府においては、入学定員超過率が高い。（九州工業）
			◎ 大学院課程の一部の研究科においては、入学定員超過率が高い。（佐賀）
			◎ 学士課程の1つの学部の3年次編入及び大学院課程の一部の研究科においては、入学定員超過率が高い、又は入学定員充足率が低い。（熊本）
	◎ 学生を「キャンパス大使」として出身高等学校に派遣し、入学者選抜方法や学生生活など説明を行っている。キャンパス大使は、進路や大学生活等について、高校生からの質問に対して、自分の経験を通じた回答を行うなど、当該大学を身近に感じてもらう独自の取組となっている。（大分）		◎ 大学院修士課程の1つの研究科においては、入学定員充足率が低い。（大分）
	◎ 文系を含めた他分野からの受入により、多様なバックグラウンドを持つ学習意欲のある学生が、全国から入学している。（奈良先端）		
			◎ 学士課程の2・3年次編入及び大学院課程の一部の研究科においては、入学定員充足率が低い。（群馬県立女子）
			○ 学士課程の3年次編入については、定員充足率が低い。（前橋工科）
			◎ 大学院課程の一部の研究科においては、入学定員超過率が高い、又は入学定員充足率が低い。（横浜市立）
			◎ 大学院課程の一部の専攻においては、入学定員充足率が低い。（富山県立）
			◎ 学士課程の2年次編入及び大学院課程の1つの研究科においては、入学定員充足率が低い、又は入学定員超過率が高い。（京都府立）
			◎ 博士前期課程の一部の研究科及び博士後期課程の多くの研究科においては、入学定員超過率が高い、又は入学定員充足率が低い。（大阪府立）
			◎ 大学院の一部の研究科においては、入学定員超過率が高い、又は入学定員充足率が低い。（兵庫県立）
			◎ 大学院課程の1つの研究科においては、入学定員超過率が高い。（岡山県立）
			◎ 学士課程の3年次編入において、生活科学部及び文化学部で入学定員充足率が低い。また、大学院修士課程の中で、看護学研究科は入学定員超過率が高く、人間生活学研究科は入学定員充足率が低い。（高知女子）
			◎ 学士課程の3年次編入においては、入学定員充足率が低く、大学院課程の多くの研究科においては、入学定員超過率が高い、又は入学定員充足率が低い。（北九州市立）
<b>平成22</b>			◎ 博士後期課程においては、入学定員超過率が高く、別科においては、入学定員充足率が低い。（帯広畜産）
	○ 平成元年度から全学的に第2学期推薦入試（帰国生徒特別入試（8月入学））を導入し、帰国生徒の積極的な受入を行っている。（筑波） ◎ 大学院課程において、英語のみで学位取得が可能な留学生特別プログラムを先導的に実施し、平成21年度文部科学省グローバル30への採択により、平成22年度からは学士課程を含めて大幅な拡充を行っている。その結果、平成22年5月1日現在における大学院課程の留学生数は、1,139人（収容定員の20.6%）である。（筑波）		◎ 学士課程の一部の3年次編入及び博士課程の1つの研究科においては、入学定員超過率が高く、博士後期課程の一部の研究科においては、入学定員充足率が低い。（筑波）
	◎ 教育学研究科（修士課程）において、平成20年度より、一定の条件を満たした海外在住者を対象に10月に入学する推薦入学特別選抜を実施し、実績を上げている。（東京学芸）		◎ 博士課程においては、入学定員超過率が高い。（東京学芸）

基準4 学生の受入

	優れた点	更なる向上が期待される点	改善を要する点
			○ 大学院課程の一つの研究科及び別科においては、入学定員超過率が高い、又は入学定員充足率が低い。(東京芸術)
			◎ 学士課程の一つの学部の3年次編入及び大学院課程の一つの研究科においては、入学定員超過率が高い。(富山)
	○ アドミッション・ポリシーに沿って「全世界から相当数の留学生を受け入れる」ため、修士課程の英語プログラムについては、口述試験に際して現地の日本国大使館や関係機関との連携の下、教員が海外に赴いて現地面接を行うほか、志願者や当該国の諸事情により現地面接が難しい場合にもインターネット会議システムを活用するなど、外国の志願者の利便性や相手国の状況に配慮した入学試験を実施している。(政策研究) ○ 入学者の選抜に当たっては、アドミッションズオフィスの統括の下、教育プログラムごとに、育成する人材像を踏まえつつ審査(書類審査、筆記試験、口述試験)を行っている。(政策研究)		
	○ 大学院課程において、国際デュアルディグリープログラムを実施して、留学生の受入及び派遣を行っている。(会津)		◎ 大学院の博士前期課程においては、入学定員充足率が低い。(会津)
			◎ 大学院看護学研究科(修士課程)においては、入学定員充足率が低い。(福島県立医科大学)
			◎ 大学院課程の一部の研究科においては、入学定員充足率が低い。(首都大学東京)
			◎ 学士課程の3年次編入及び修士課程においては、入学定員充足率が低い。(新潟県立看護)
			◎ 大学院の博士後期課程においては、入学定員充足率が低い。(石川県立)
	○ 入学後の学業成績追跡調査において、蓄積されたデータを基に細かな検証を行い、今後の改善のために役立っている。(静岡文化芸術)		
	○ 美術学部における特別入試(社会人、自己推薦)、音楽学部における推薦特別入試など、入学試験の枠を広げ、多様な人材の受入に努めている。(愛知県立芸術)		
			◎ 多くの研究科の博士後期課程においては、入学定員充足率が低い。(名古屋市立)
			◎ 大学院課程の一つの研究科においては、入学定員充足率が低い。(滋賀県立)
			○ 入学者受入方針に沿った学生の受入が実際に行われているかどうかを検証するための組織的取組が十分とはいえない。(奈良県立) ◎ 学士課程の3年次編入においては、入学定員充足率が低い。(奈良県立)
	◎ 入試選抜方法ごとに学生の入学後の成績についての追跡調査を実施し、入試選抜方法の改善が行われている。(九州歯科)		
	○ 大学、人間社会学部、看護学部、人間社会学研究科及び看護学研究科それぞれのアドミッション・ポリシーにおいて、求める学生像と入学者選抜の基本方針とが、平易な表現で極めて鮮明に打ち出されており、学生がそれを積極的に受け止めて入学している。(福岡県立)		
			◎ 文学研究科(修士課程及び博士前期課程)においては、入学定員充足率が低い。(福岡女子)
			◎ 学士課程の3年次編入及び博士後期課程においては、入学定員充足率が低い。(大分県立看護)
			○ 学生の受入について、入学志願者が少なく競争性が確保されておらず、入学者選抜が十分に機能していない。(LEC東京リーガルマインド) ◎ 入学定員充足率が低い。(LEC東京リーガルマインド)
			◎ 学士課程の3年次編入及び大学院課程の入学定員充足率が著しく低い。(大阪女学院)
<b>平成23</b>	◎ 各学部、各研究科のアドミッション・ポリシー(求める学生像)が明確に定められている。(群馬県民健康科学)	◎ 入学者選抜の結果と入学後の成績に関する詳細な追跡調査を行っているが、その結果をいかに改善に活かすかは今後の課題である。(群馬県民健康科学)	
	○ 平成22年度より特別選抜(推薦)入試に函館圏を対象とした指定校枠と北海道と青森県の高等学校を対象とした地域枠を設け、地域の教育への貢献が期待される公立大学としての姿勢を明確にしている。(はこだて未来)		○ 大学院課程の入学者受入方針の策定が遅れている。(はこだて未来) ○ システム情報科学研究科(博士(後期)課程)については入学定員充足率が低い。(はこだて未来)
			◎ 入学定員充足率は、国際政策学部(3年次編入)及び人間福祉学部(3年次編入)において低い。(山梨県立)
			◎ 大学院課程の一部の研究科においては、入学定員超過率が高い、又は入学定員充足率が低い。(愛知県立)
			◎ 学士課程の3年次編入においては、入学定員充足率が低い。(県立広島)
			◎ 学士課程の一部の学部及び大学院課程の多くの研究科においては、入学定員超過率が高い、又は入学定員充足率が低い。(聖徳)